

令和7年3月13日

栗山町議会議長 鶴 川 和 彦 様

総務教育常任委員会委員長 堀 文 彦

所 管 事 務 調 査 報 告 書

令和6年5月28日開催の総務教育常任委員会において決定した所管事務調査を実施したので、その結果の概要を次のとおり報告します。

記

1. 調査事項 介護福祉学校で行われている高専連携の実態と課題、今後の展望について

2. 調査日程

回	調 査 年 月 日	と ころ	出欠 状況	説 明 員	結 果	摘 要
1	7. 2. 3	委員会室	5	北海道介護福祉学校長、同事務局長、同事務局主幹	継 続	説 明 質 疑
2	7. 3. 13	〃	5	—	まとめ	—

3. 調査内容

令和4年度に文部科学省の委託を受けて実施している「栗山高等学校との連携による高専一貫教育プログラムの開発・実証事業」について、担当課からの報告を基に調査を行った。

概要は、北海道介護福祉学校の存在意義を発揮し、介護福祉人材を育成するため、新たな教育モデルの開発を目指し、連携協定を締結している栗山高校との連携をより強化・発展させ、行政と産業界が協働し、高・専一貫の教育プログラムの開発に必要な体制として、連携組織「魅力化コンソーシアム」を構築、発展的な事業展開を図るものである。そして、北海道介護福祉学校と栗山高校と共同体制のもとに教育カリキュラム・プログラムを構築するものである。

高専教育プログラムのイメージは、「地域で学び、地域で育て地域に貢献できる人

材を応援する」、「高校、専門学校、行政、地域、企業の連携による人材教育プログラム」、「栗山高校必修科目：栗山と福祉の計画作成、授業を介護学校が協力」となっている。

本年度の栗山高校1年生の実証授業は、介護福祉学校への来校授業として、車椅子介助・歩行介助、視覚障害者体験、また、合同授業としてパラスポーツ体験、そして実習では、介護福祉学校1年生と車椅子で栗山公園へ向かい、公園のバリアフリー化の改善の必要性について実習授業を行った。この実習授業で出た意見については、今後まとめ、報告される予定とのことである。

栗山高校2年生の実証授業は、来校授業として、高齢者疑似体験や介護技術実習、認知症VR体験、また、合同授業としては、徘徊模擬訓練、パラスポーツ体験、発達障害について考えるなどを行った。

栗山高校3年生の実証授業は、来校授業として、介助技術の実習や、高齢者へのレクリエーションの出張講義を行った。

また、介護学校では、町内の小中高との連携による一貫した福祉教育を展開。小学校では、基礎的体験、そして中学校では応用的体験、高等学校では実践的体験、介護学校で専門教育といった体系で全世代介護・福祉教育による地域づくりへの関与・啓発活動を行っている。

今後においては、本事業の主旨である「地域の中で活躍する人材養成」に継続的に関与し、地域における将来の介護人材の発掘育成、そして、介護人材が定着する環境づくりに貢献することで学校の存在価値を発揮させ地域ニーズに呼応する学校へ進化させていくこととしている。あわせて、この事業を実施したことで、栗山高校の生徒が福祉に興味を持ち、介護福祉学校への進学につながることも期待をしている。また、本事業を他地域でも再現できるよう内容を冊子化し普遍化していくこととしている。

なお、この事業は令和8年度が最終年となり、継続的な取組みについて、今後検討していくこととなる。

4. 意見

文部科学省からの委託事業により、福祉教育を通して栗山高校の生徒の豊かな人間性を育む人材育成を実現していると評価したい。

また、栗山高校での「栗山と福祉」という特色ある授業を行っていることで、学区を広げて生徒募集ができ、また、福祉に興味を持つ栗山高校の生徒が介護福祉学校へ進学する道を構築することとなれば、介護福祉学校の入学者増も望める。

これからも本事業の主旨である「地域の中で活躍する人材育成」を行っている北海道介護福祉学校の取り組みが広まるよう、本事業が終了しても引き続き取り組んでいくことを願う。